

1 4. 整形外科

1. GIO(一般目標)

A (外傷・その他)

- 1) 創傷の救急処置および全身的・局所的療法を習得する。
- 2) 骨折、脱臼、捻挫の初期診察に必要な基本的知識と技術を身につける。(開放性を含む。)
- 3) 代表的な骨関節の整形外科感染症について学ぶ。
- 4) 頸部痛、腰背痛、四肢痛、関節痛、内科的疼痛などを引き起こす疾患を理解する。
- 5) 理学療法・機能訓練の基本処方とその適応について学ぶ。
- 6) 代表的な先天性疾患、代謝障害、腫瘍、退行変性疾患、骨端炎について学ぶ。

B (スポーツ・関節)

- 7) 各種スポーツ外傷・各種スポーツ障害の診断に必要な基礎知識と診察方法を身につける。
- 8) 理学療法の基本処方と進め方を身につける。
- 9) 目標とするスポーツ活動に復帰するまでのプログラムの立て方を学ぶ。
- 10) 応急処置と治療の組み立てができる。

C (脊椎・脊髄)

- 11) 脊椎、脊髄損傷患者の初期診察に必要な基本的知識と技術を身につける。

2. SBOs (行動目標)、4. Ev (評価)

	行動目標 (SBOs)	研修方法	評価方法 (EV)
身体的診察法			
	1) 創傷の発生部位・創傷の種類・創傷の深さについて診察することができる。	実習	カルテ・口頭試問・レポート・観室
	1) 血管・神経・腱損傷の診断ができる。	実習	レポート・口頭試問・観室
	1) 創傷の専門治療の必要性の判断とその速やかな紹介ができる。	実習	カルテ・口頭試問・観室
	1) 骨折、脱臼、捻挫の初期診察ができる。	実習	カルテ・口頭試問・レポート
	2) 開放性骨折の定技・分類及び診察法を実地することができる。	実習	カルテ・口頭試問・レポート
	3) 感染症の具体的な症状・所見・診察法を実施することができる。	実習	カルテ・口頭試問
身体的診察法			
	3) 痛みについて診察し、それをカルテに記載することができる。	実習	レポート・口頭試問
	6) 四肢、体幹、脊椎のどの部位にどのような変化が起きているかカルテに記載することができる。	実習	レポート提出・カルテ
	B 四肢の解剖・理解ができる。	実習	口頭試問
	B 問診、特に受傷基点から来院までの経過を患者から正しく聴取できる。	実習	カルテ評価
	B 四肢関節の理学所見を取ることができる。	実習	カルテ評価
	C 脊椎、脊髄損傷の症状について述べるることができる。	実習	カルテ評価・観察
	C 神経学的診断により脊髄損傷の程度とレベルを診断することができる。	実習	カルテ評価・観察
基本的な臨床検査			
	1) 創傷内の異物の混入の有無を診断することができる (X線)。	実習	カルテ・口頭試問
	2) 骨折、脱臼、捻挫の初期診察について必要な検査を実施することができる。その結果の病態を述べることができる。	実習	カルテ・口頭試問評価・レポート
	3) 感染症の診断に必要な検査をオーダーすることができる。(採血・XP・MRI の画像診断を含む)	実習	カルテ・口頭試問
	3) それを総合診断して感染症の診断を下すことができる。	実習	レポート提出・口頭試問

4) 痛みについて診断に必要と思われる検査をオーダーすることができる(採血、XP、CT、MRI 検査を含む)	実習	口頭試問・レポート
5) 診断に必要な検査をオーダーすることができる。	実習	レポート提出
B 骨・関節単純 X 線検査	実習	加評価
B 骨・関節動的 X 線検査	実習	加評価
B 骨・関節単純/造影 CT 検査	実習	加評価
B 骨・関節単純 MRI 検査	実習	加評価
C 脊椎骨折の基本的な X 線診断ができる。	実習	加評価
基本的手技		
1) 創傷の種々な止血法を行うことができる。	実習	加・口頭試問・観室
1) 血管・神経・腱損傷の応急処置ができる。	実習	加・口頭試問・観室
1) 骨折、脱臼、捻挫に対して適切な弾力包帯法、ギプスシーネ固定法、ギプス固定法について実施できる。	実習	観室・口頭試問
2) 弾力包帯法、ギプスシーネ固定法、ギプス固定法の原理と阻害因子について述べるができる。	実習	観室・口頭試問
2) 牽引療法を実地することができる。	実習	観室・口頭試問
3) 感染症に対して初期の応急処置を実施する事ができる。	実習	観室・口頭試問
4) 痛みに対しての処置法を実施することができる。	実習	口頭試問・レポート
4) トリガーポイント注射、関節内注射を実施することができる。	実習	口頭試問・レポート
B 包帯法を実施できる。	実習	観察
B 各関節穿刺法を実施できる。	実習	観察
C 脊椎骨折の基本的な応急処置ができる。	実習	観察・口頭試問
基本的治療法		
1) 創傷の全身への影響に際しての治療ができる。	実習	加・口頭試問・レポート
1) 創傷の局所への影響についての治療ができる。	実習	加・口頭試問・レポート
1) 血管・神経・腱損傷の治療について述べるができる。	実習	加・口頭試問・レポート
1) 血管・神経・腱損傷の治療ができる。	実習	加・口頭試問・レポート
2) 骨折、脱臼、捻挫の初期治療について必要な技術を実施することができる(応急処置を含む)	実習	観室・口頭試問
2) 開放性骨折に対する初期的治療法について述べることができ、それを実施できる。	実習	観室・口頭試問
2) 代表的な骨折の平均癒合期間と阻害因子について述べるができる。	実習	観室・口頭試問
2) 四肢に対して単純なギプス固定を行うことができる。	実習	観室・口頭試問
2) 牽引療法の適応を選択し、実施することができる。	実習	観室・口頭試問
3) 感染症に対しての治療法を具体的に述べるができる。	実習	レポート提出・口頭試問
3) 感染症に対して緊急手術の適応を列挙することができる。	実習	レポート提出・口頭試問
3) 感染症に対して手術適応の有無を判断することができる。	実習	レポート提出・口頭試問
3) 適切な抗生剤の選択をすることができる。	実習	レポート提出・口頭試問
4) 痛みに対して、保存的治療・手術的治療の適応の選択をする事ができ、具体的な治療法について述べるができる。	実習	口頭試問・レポート
4) 内科的関連痛に対して、鑑別上必要な内科的疾患を具体的に述べることができ、速やかに専門科紹介をすることができる。	実習	口頭試問・レポート
4) 神経ブロック、トリガーポイント、関節内注射の合併症とその対策について具体的に述べるができる。	実習	口頭試問・レポート
5) 手術前・手術後の理学療法・機能訓練を具体的に処方することができる。	実習	口頭試問・レポート

5) 理学療法・機能訓練の合併症と予防について述べる ことができる。	実習	口頭試問・レポート
1) 治療法について列挙することができる。	実習	レポート提出
B ブロック注射を実施できる。	実習	観察
B 副子固定を実施できる。	実習	観察
B ギプス固定を実施できる。	実習	観察
B 薬物療法を理解し実施できる。	実習	加評価
B RICE 療法を指導できる。	実習	加評価
B 目標とするスポーツ活動に復帰できる時期を予測できる。	実習	加評価
C 脊椎、脊髄患者の取扱上の注意について述べる ことができる。	実習	観察・口頭試問
C 脊髄損傷の初期管理を行うことができる。	実習	観察・レポート
頻度の高い症例		
B スポーツ外傷－関節挫傷、靭帯断裂、筋挫傷、肉離れ	実習	レポート
B スポーツ障害（疲労骨折、野球肩/肘など）－野球肩、 野球肘、腰痛症、腰椎分離症、骨端線症	実習	レポート

3. LS (方略)

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
月・水・金 7:45-9:00 火・木 8:30-	Conference 入院患者診察	入院患者診察	Conference 回診 入院患者診察	入院患者診察	Conference 入院患者診察	8:30 WEC
9:00-12:00	外来業務 (検査含・ファース トタッチ【新患外 来】も含む) 手術	外来業務 (検査含・ファース トタッチ【新患外 来】も含む) 手術	外来業務 (検査含・ファース トタッチ【新患外 来】も含む) 手術	外来業務 (検査含・ファース トタッチ【新患外 来】も含む) 手術	外来業務 (検査含・ファース トタッチ【新患外 来】も含む) 手術	外来業務 (検査含む)
12:00-12:30						1 週間の総ま とめ、レポート提出と その評価
昼休み						
13:30-17:00		手術・検査	手術・検査	手術・検査	手術・検査	
17:00-18:00		本日のまとめ 反省・明日の 予定の確認	本日のまとめ 反省・明日の 予定の確認	本日のまとめ 反省・明日の 予定の確認	本日のまとめ 反省・明日の 予定の確認	
18:00-19:00		ミニレクチャー	ミニレクチャー	ミニレクチャー	ミニレクチャー	

カンファレンス、講義等

カンファレンス・・・ 毎週 月・水・金曜日